

# 式 辞

高倉の池の桜のつぼみも、日に日に膨らみ始め、春の訪れの日の近いことを思わせる季節になりました。

新型コロナウイルスの影響で、例年とは異なり、卒業生と本校教職員だけの簡素な形での、卒業証書授与式となりましたが 卒業生を送り出す喜びは、私たち教職員にとりまして、例年以上に大きなものがあります。

ただいま、卒業証書を授与いたしました卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。このような時期だからこそ、皆さんにとって、思い出に残る卒業証書授与式になるようにと、私たち教職員一同願っております。

本来であれば、本日ここにご列席し、立派に成長されたお子様の姿をご覧になるはずだった保護者の皆様にも、改めて心よりお祝いを申し上げます。

さて、振り返ると、第十期生の皆さんは、平成二十九年四月に、この鶴ヶ島清風高校で新たな生活をスタートさせました。

入学してから今日まで、「飛翔・礼節・調和」の校訓のもと、皆さんが、夢を持ち、失敗を恐れず、学校生活に一所懸命に取り組んできた姿は我々教職員の目に焼き付いています。

本校での三年間、勉強はもちろんのこと、学校行事や部活動など、さまざまな目標に向かって挑戦してきました。

一年次でのインターンシップや二年次での修学旅行、そして清風祭、体育祭、マラソン大会などの行事では、クラスの仲間との強い絆を築くとともに、様々な経験を積み重ねて人間性を磨いてきたことと思います。

部活動では、仲間とともに暗くなるまで練習に励み、休日も返上して汗を流し、県大会に出場するなど、運動部、文化部ともに後輩たちの見本となる活躍を見せてくれました。

このような日々を送る中では、つらかったこと、挫折しそうになったこともあったでしょう。時には悔し涙を流した時もあったと思います。しかし、そのつらさを乗り越え、目的を達成したときの喜び、その経験こそ、これからの人生の最高の宝物になるはずです。

この経験や思い出を、いつまでも大切に、胸に刻んでおいてください。そして、いつも皆さんを見守り、励まし、支えてくださった、家族や先生方、仲間、後輩たちがいたことを忘れないでください。

そんな皆さんが、溢れる希望を胸に抱(いだ)き、本日をもって、鶴ヶ島清風高校から、新たなる社会へ、羽ばたいていくことに、大きな寂しさを禁じ得ません。

今ここに、万感の思いを込めて、そしてこのような状況の中、本校から旅立っていく皆さんへ、餞(はなむけ)の言葉を贈りたいと思います。

その言葉は、後漢書(ごかんじょ)の中にある「疾風に勁草を知る」という言葉です。勁草とはしっかり根を張った強い草という意味で、強風が吹いたときに初めて、それに負けない強い草を見分けることができるように、人間は困難や試練に直面したときに、その人の人間としての本当の価値がわかるということです。

新型コロナウイルスの影響で、現在の社会状況はかつてないほど、先行き不透明な状態が続いています。そのような中で、新たな世界に旅立っていく皆さんは、自分自身の経験不足からの不安を

抱えているかもしれません。そしてそれらは、新生活への壁となって立ち塞がるかもしれません。しかし、そんな時にこそ、その人の真価が問われるのです。強風の中でも強く根を張っている強い草であるかどうか。

どんな壁も必ず乗り越えられると思えば、壁は低くなります。皆さん一人一人が、地面にしっかり根を張った強い草となり、どんな強風にも負けず、これからの社会で立ち塞がるであろう壁を乗り越えて行って下さい。

皆さんは、この三年間に、この学び舎で、多くのことを学んできたはずです。

そんな皆さんですから、これからもさらなる精進を重ね、本校で学んだことを、自分のためだけでなく、人のため、社会のために役立たせて、立派な社会人になると確信しています。

いよいよ本日をもって皆さんは、鶴ヶ島清風高校から新たなる社会に向けて羽ばたきます。卒業生の皆さんが、人間性豊かな社会人として、前途洋々たる人生に、大空を颯爽と飛んでいる鳥のように、飛翔していくことを心より祈念し、式辞といたします。

令和二年三月十一日  
埼玉県立鶴ヶ島清風高等学校長  
金子 典之